



日本学校ソーシャルワーク学会 全国大会

# 第17回 岡山大会

## 大会要項 (第2報)

日程：2023年7月15日(土)・7月16日(日)

会場：川崎医療福祉大学(岡山県倉敷市松島288)

大会テーマ

**連携 ～子どもとともに考え、つくる みんなの未来～**

ご挨拶

日本学校ソーシャルワーク学会第17回全国大会を、上記日程で、川崎医療福祉大学を会場に、開催いたします。対面での開催は、2019年に開催されました第14回福島大会から、約3年ぶりになります。みなさまに、安心・安全にご参加いただく中で、みなさまと対面で会い、共に学び合う、繋がり合う機会となるように、準備を行っております。

本大会のテーマは、「連携～子どもとともに考え、つくる みんなの未来～」といたしました。子どもたちの抱える課題の複雑性・多重性等により、学校だけでなく家庭や地域の様々な関係機関・者と共に取り組む必要があります。その際、スクールソーシャルワークは、校内外の「繋がり」をつくる存在として期待され、実際に、「繋ぐ」・「連携」する役割として語られることも多いです。

しかしながら、その「連携」は、誰のために、何のために、何を「繋ぐ」・「連携する」のでしょうか。その実践に、子どもたちが主人公として参加しているのでしょうか。改めて、「子どもたちの声や思いを聴くこと」とはということなのかという支援の柱となる部分を確認します。その上で、子どもたちの最善の利益の保障に向けて、子どもの生活・未来を子どもとともに考え、つくっていくとはということなのかを考える必要があります。さらに、私たちの未来はどうありたいのかについて、「ソーシャルワーク」の視点を大切にしながら、その実践の方向性や可能性を、参加者と共に深めていく機会にしたいと思っております。

多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

第17回全国大会 大会長

藤澤 茜(香川県教育委員会他 スクールソーシャルワーカー)

# ☆大会プログラム

## 7月15日（土）事前研修

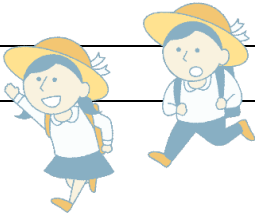
TIME	SUMMARY
9:30	受付開始
10:00	<p><b>【公開研修】「岡山における社会事業 一石井十次と濟世顧問制度に光を当てて」</b></p> <p>講師：山本 浩史 氏（新見公立大学 教授） コーディネーター：福間 麻紀 氏（北海道医療大学 准教授）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p><b>&lt;研修のねらい&gt;【定員:なし】</b></p><p>今回の大会開催地である岡山には、近代日本における社会事業での先駆的取り組みが数多くあり、それらは現在の社会福祉制度やサービスのあり方に多大な影響を与えてきた。事業の範囲は、救貧、養老、孤児の保護・教育等多岐にわたるものであって、しかもそれらの多くは民間慈善事業から始まり公的事業に発展している。その時代の人々のニーズに応えるために、これらの事業は、どのような目的で、誰によって、どのように創出され、どのように展開されてきたのだろうか。</p><p>本研修では、過去の実践を辿り、「社会の中でソーシャルワークが求められることとは何か」を見つめ直す中で、「未来につながるスクールソーシャルワーク」について参加者それぞれが考える機会としたい。</p></div> <p><b>【専門研修】「学校をシステムとしてとらえなおす」</b></p> <p>講師：大塚 美和子 氏（神戸学院大学 教授） コーディネーター：佐々木 千里 氏（立命館大学 非常勤講師）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p><b>&lt;研修のねらい&gt;【定員:なし】</b></p><p>前回大会の専門研修では、ミクロ、メゾ、マクロに好循環を生み出す実践をめざすために、「ジェネラリスト・ソーシャルワークの理解」をとりあげ、理論理解を深めることで、スクールソーシャルワーク実践のあり方を考えた。そのうえで、今回はメゾシステムである学校に焦点をあてる。</p><p>持続可能な子ども中心の好循環をめざすスクールソーシャルワーク実践において、学校というメゾシステムへのアプローチは重要な意味をもっている。しかし、学校へのアプローチが意識されていない、またはそこに難しさを感じているスクールソーシャルワーカーは少なくない。また、「メゾシステムとしての学校」をとりあげた研究も多いとはいえない。</p><p>本研修は、メゾシステムとしての学校をどうとらえるのか、学校をどのようなシステムとみなしていくのか、それが好循環の発生にどのように影響するのか等について理解を深め、参加者それぞれの立場で「学校を基盤としたソーシャルワーク」の意義を再考する機会としたい。</p></div>
12:00	

<受講料> 公開研修、専門研修ともに、会員は 1,000 円 非会員は 2,000 円。

<事前研修申し込みの留意事項>

申し込み及び口座振込の方法は、すべて後記の「大会案内」の手順に従ってください。

# 7月15日（土）本大会 1日目

TIME	SUMMARY
12:30	受付開始
13:00	開会挨拶
13:10	<p><b>基調講演</b>  <b>「連携の中心にある、『子どもの声を聴く』とは」</b>            講師：堀 正嗣 氏（熊本学園大学 教授）</p> 
14:40	<div style="border: 2px solid blue; padding: 10px;"> <p><b>【趣旨】</b>              子どものウェルビーイングの実現のために、子どもが主役となる「連携」が欠かせない。子どもの思いを聴く、子どもが参加する「連携」を行うにあたり、改めて、「子どもの声を聴く」ことの視点や、そのために必要な実践の要となるものを考える機会とする。大人だけで決めない、子どもを蚊帳の外にしないために、子どもたちへ携わる者同士が、その基本となる要の部分を抑えた上で、大会テーマの「連携」について考えていきたい。</p> </div>
14:50	<p><b>大会シンポジウム</b>  <b>「子どものウェルビーイングのための連携を」</b>            シンポジスト            河村 香苗 氏（鳥取大学医学部附属病院 医療ソーシャルワーカー）            直島 克樹 氏（こどもを主体とした地域づくりネットワークおかやま代表/川崎医療福祉大学 講師）            助言者            堀 正嗣 氏（熊本学園大学 教授）            コーディネーター            長崎 和則 氏（川崎医療福祉大学 教授）</p>
16:50	<div style="border: 2px solid blue; padding: 10px;"> <p><b>【趣旨】</b>              基調講演を受けて、子どものウェルビーイングのために、どのような連携を行う必要があるのか、「連携」から「協働」へと展開していくためには何が必要なのかについて、他職種と連携している2名の実践報告を行う。その際、ミクロ・メゾ・マクロレベルでの実践がどのような相互作用を生み出して子どものウェルビーイングの実現に繋がっているのかや、子どもだけでなく地域全体のウェルビーイングも視野に入れる必要性について考える。また、生活全体へ働きかけるソーシャルワークの可能性について、会場参加者の方々にも対談に参加してもらい、実践の糸口を探っていきたい。</p> </div>
17:00 17:30	<p>年次総会 会員の皆様は、ふるってご出席ください。</p>
	<p><b>移動</b>            ※情報交換会の会場への移動手段等に関しては、申し込みの方へ事前に連絡いたします。</p>
18:30 21:00	<p><b>情報交換会</b>  <b>「倉敷のイタリアン Nocca 倉敷店」</b>            倉敷市阿知1丁目7-1 天満屋倉敷店 6階【倉敷駅から徒歩1分】            ※参加費 4,500円、定員 80名            ※事前申し込みの、先着順とし、定員になり次第、受付を終了いたします。</p>

# 7月16日(日)本大会2日目

TIME	SUMMARY
9:00	受付開始
9:30	<b>口頭発表</b> ・口頭発表申込は、5月12日(金)で終了しています。 12:00 ・発表は1演題あたり、発表時間20分、質疑応答15分 計35分となります。
	休憩
13:00	<b>課題研究</b>  <b>【第1分科会】「スクールソーシャルワーカーの専門性の向上とスーパービジョンの役割            —SVの実態に焦点をあてて—」</b>  報告者：清水 克修 氏（横浜市教育委員会 統括スクールソーシャルワーカー） 「SVにおける実践課題とその克服に向けた取り組み」 安永 千里 氏（「援助職のための勉強会」代表、 文京区教育センター スーパーバイザー他） 「機関外 SVは何を目指すのか—理想と現実の模索」 渡辺 実子 氏（山梨県教育委員会 スクールソーシャルワーカー） 「『認定社会福祉士』の立場からSSWSV体制への葛藤と展望」 コメンテーター：田中 千枝子 氏（日本福祉大学 客員教授） コーディネーター：新藤 こずえ 氏（上智大学 准教授）



### <趣旨>

スクールソーシャルワーカー活用事業の開始以降、スクールソーシャルワークは福祉・教育・心理をはじめ、さまざまな専門・経験を背景とした人々が担っており、スクールソーシャルワーカーとして質の高い実践を行うにあたっては、スクールソーシャルワーカーの専門性の向上に資するスーパービジョン(SV)が不可欠である。しかし、SVが誰に、どのように担われているのか、また具体的な内容がどのようなものであるのか、そして、バイザーであるスクールソーシャルワーカーの専門性は向上しているのか、実態が明らかにされているとはいいがたい。そこで、本分科会では、スクールソーシャルワーカーとしてSVを担っている方々に登壇いただき、多様な立場(自治体内の統括スクールソーシャルワーカー・SV、附属学校のスクールソーシャルワーカー・自治体外のSV、自治体のスクールソーシャルワーカー・認定社会福祉士としてのSV)からスーパービジョンの実態について報告する。そのうえで、コメンテーターより、ソーシャルワーク専門職に対するスーパービジョンという観点からスクールソーシャルワーカーのSVにはどのような課題があり、今後の方向性としてどのような展望があるのか、他領域でのSVのあり方についても情報提供を得ながら議論する。

## 【第2分科会】「スクールソーシャルワーク実践の理論的根拠を問い直す」

報告者：田上 麻衣子 氏（福岡県教育委員会 スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー）  
林 聖子 氏（京都市教育委員会 スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー）  
コメンテーター：高良 麻子 氏（法政大学 教授）  
コーディネーター：佐々木 千里 氏（立命館大学 非常勤講師）

### <趣旨>

文部科学省のスクールソーシャルワーカー活用事業が始まってから今年度で16年目となる。この間、複数の自治体での活動経験をもつスクールソーシャルワーカーも増えてきているが、スクールソーシャルワーカー同士の情報交換の場等で話題にあがるのは「自治体ごとのスクールソーシャルワーカーの活用のあり方や支援方法の違い」に関するものに留まることが多い。しかし、支援にはアセスメントはもちろん理論的根拠があるはずであり、本来はそれらについて話題にし、議論されるべきであろう。そこで本分科会では、二つの異なる自治体から、現場のスクールソーシャルワーク実践に大きな影響を与えるスクールソーシャルワーカー・スーパーバイザーにご登壇いただき、ひとつの模擬事例を使用して、どのような根拠で、どのような支援を考えるのか等について、それぞれからご報告いただく。そして、それらを共通の枠組みで整理し分析し考察する中で、実践における理論的根拠を見直していく。

参加者との活発な意見交換の中での議論の深まりを期待する。

## 【第3分科会】「生徒指導提要(改訂版)とSSWの活動」

報告者：南崎 加奈子 氏（鳥取県教育委員会 スクールソーシャルワーカー）  
「特別支援学校における取り組み事例」  
越智 紀子 氏（光華女子大学 特任教授）  
「生徒指導提要のSSW活動における活用の可能性について」  
コーディネーター：野田 正人 氏（立命館大学 特任教授）



### <趣旨>

生徒指導提要は、小学校から高等学校段階までの学校・教職員向けの生徒指導の基本書として編纂されている。2022年の生徒指導提要の改訂版は、2010年の提要に比べて学校へのインパクトが強いとの生徒指導関係者からの声が聞こえてくる。その間に、学校の職員と位置づけられたスクールソーシャルワーカーにとっては、今次の提要がチーム学校とアセスメント、それをスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを含む全教職員で取り組むとの基本姿勢が強調する中で、どのようにこの提要を活用し、どのような活動をめざすのが、学校の「共通基盤」理解とともに重要となる。

本分科会では、二度の提要の策定に関与した企画者から提要の概要を示した上で、スクールソーシャルワーク実践の事例をいくつかのステージに分けて報告いただき、そのステージごとにフロアとの議論をとおして課題を解題することをめざす。あわせて、提要のスクールソーシャルワークへの普及の工夫についても検討する。



【第4分科会】「スクールソーシャルワーク領域での実践に基づいた研究と研究に基づいた実践」

報告者：日置 真世 氏（NPO 法人地域生活支援ネットワークサロン代表理事）

「若者自立プロセス資源化モデル事業について」

大友 秀治 氏（北星学園大学 准教授）

「若者支援組織における実践と研究」

後藤 久美 氏（富士市教育委員会 スクールソーシャルワーカー）

「自治体におけるスクールソーシャルワーク実践スタンダードの活用について  
—スクールソーシャルワーカーの実践評価のために—」

馬場 幸子 氏（関西学院大学 教授）

「スクールソーシャルワーク実践スタンダードの開発から普及へ  
—実践者と協働プロセス—」

司会・コーディネーター：比嘉 昌哉 氏（沖縄国際大学 教授）

<趣旨>

「ソーシャルワークは、実践に基づいた専門職であり学問である。」ゆえに、スクールソーシャルワークの実践と研究は表裏一体で、円環する。この分科会では、昨年の前日企画及び第3分科会を踏まえ、①実践者が研究すること、②実践者が研究成果を利用すること、③研究者が実践者と一緒に研究すること、そして④研究者が研究成果を実践者に還元することの重要性について改めて取り上げる。

スクールソーシャルワーカーが自らデータをとること、研究者とタッグを組んで現場を可視化すること、現場の声を社会に発信することは、一見難しくハードルが高く思われるかもしれない。だが、ほんの少しの工夫と人脈の活用で、実践者と研究者は Win-Win の関係で結びつき、よりよい実践、よりよい研究、そして子どもと家族の福祉の増進に寄与することができる。本分科会では、明日からの実践・研究活動に活かせるよう、上記①～④について、実践者・研究者それぞれの立場から実例を報告する。

15:30 終了（各分科会会場にて終了）

## ☆大会案内

### 1 参加区分と費用



	会 員	非 会 員	学生/大学院生*	情報交換会
事前研修	1,000 円	2,000 円	会員・非会員の金額	4,500 円 (事前申込必要)
本大会(事前申込)	3,000 円	4,000 円	2,000 円	
本大会(当日申込)	5,000 円	5,000 円	3,000 円	

\*…社会人学生と社会人院生は除く

## 2 申し込み方法

- ① 専用の事前申込フォームに必要事項を記入して送信する。

<https://forms.gle/Uz7d4fJXbAHqSTTA6> または右の QR コードより専用フォームへ。

**【5月8日(月)9:00～6月30日(金)24:00】**までにお申し込みください。

申込直後に送信される自動返信メールによって申込内容を確認してください。

\*メールアドレスが正確に入力されていないと返信されません。



- ② 参加費等を振り込む。

自動返信メール受信後、**申し込みをした合計金額を10日以内**に下記の指定口座へお振り込み下さい。

振込最終締め切り**【7月7日(金)15:00】**

入金内容をお確かめの上、必ず**参加者のお名前**でお振り込み下さい。

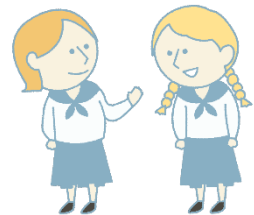
- ③ **【事前申込完了メール】**を受信する。

大会事務局での事前申込及び振込の確認ができ次第、順次ご登録メールアドレスへ**【事前申込完了メール】**を送信いたします。必ずご確認ください。

**①～③全ての手続を行い事前申込受付け完了**

注1:振り込み後 2 週間経っても**【事前申込完了メール】**が受け取れない場合は、お手数ですが大会事務局までお問い合わせください。

注2:振り込みいただいた費用は、いかなる場合も返金いたしかねますのでご了承ください。



## 3 参加費等支払方法

**【ゆうちょ銀行】**

名 義：日本学校ソーシャルワーク学会全国大会

記号・番号：17400-93866021

**【他金融機関からの振込を利用する場合】**

カ ナ：ニホンガッコウソーシャルワークガツカイゼンコクタイカイ

店 名：七四八(ナナヨンハチ)店(748) 預 金 種 目:普通

口 座 番 号：9386602

注1:振込は、入金内容(事前研修費・本大会参加費)をお間違えのないようご確認の上、一括して上記の口座番号へ振り込んでください。

(例:「会員」が「事前申込」で「事前研修」と「本大会」に参加の場合…1,000円+3,000円=4,000円)

注2:参加者ごとに、参加者の氏名で入金してください。大学名や何人かまとめた振り込み、代理による振り込みはしないでください。

<当日申込の場合>

受付にて申込手続きをし、上記の該当区分の参加費をお支払いください。

なお、当日申込での情報交換会は参加できませんので、ご了承ください。

## 4 会場開催の変更等について

COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の感染拡大の影響により、開催方法の変更等を行う場合には、参加申込の方へ、申込時に記載いただいた連絡先(メールアドレス)へご連絡いたします。

## 5 抄録集について

今大会では、ペーパーレス化のため、抄録集を紙媒体では配布いたしません。

おそれいりますが、各自で、ノートパソコン、タブレット等の端末機器(デバイス)で抄録原稿を(※後日追加掲載します)を見ることができるようにご準備いただきますようお願いいたします。また、必要に応じて各自でダウンロード、印刷等いただきますようお願いいたします。

なお、大会会場では、印刷対応ができませんので、悪しからずご了解ください。よろしくお願いいたします。

## 6 昼食

1) 昼食は各自でご用意ください。

最寄りのJR中庄駅から大学までの途中にコンビニエンスストアが2つ、スーパーマーケット等があります。また、大学の食堂(2階フードモール)は、7/15(土)10:30~14:00 であれば営業しています(日曜日は休業日)。詳細は、全国大会ホームページをご覧ください。

2) ゴミ等については、各自で処理していただきますようお願いいたします。

## 7 情報交換会について

日 時 : 7月15日 土曜日 (本大会1日目) 18:30~21:00

場 所 : 「倉敷のイタリアン Nocca 倉敷店」

(倉敷市阿知1丁目7-1 天満屋 倉敷店6階)

アクセス : JR 山陽本線・伯備線「倉敷駅」から徒歩1分

参加費 : 4,500円

定 員 : 80名(先着順)

※会場が倉敷駅直結のビルの中です。総会終了後、大学から倉敷駅の間は、交通渋滞時間と重なりますので、電車の移動がベストです。

※タクシーの利用を希望される方は、人数に応じてタクシーを早めに予約しますので、申込時にご記入ください。なお、タクシーは相乗りになりますことをご了解ください。

※情報交換会のみ参加はできません。定員となり次第、受付を終了しますのでご了承ください。また、情報交換会の会場の詳細等は、全国大会ホームページをご覧ください。



## 8 宿泊の手配について

大会事務局では宿泊の手配は行っておりません。各自でご用意いただきますようお願いいたします。

なお、最寄りの中庄駅から倉敷駅まで1駅、岡山駅までは3駅になっております。余裕をもってご予約をされることをお勧めします。





## 9 託児について

託児に関しては、要望等に応じて、可能な限り対応を検討しています。

ご利用を希望される方は、事前申し込み期間中に、**事前参加申し込み時において**、お子様の人数と年齢をお書きください。

## 10 バリアフリー等について

キャンパス内すべての施設においてバリアフリーの整備ができています。

また、「手話通訳」や「要約筆記」等の個別に情報保障の必要な方は、**事前参加申し込み時**にお申し出ください。その他、参加いただくにあたり不安なこと等がありましたら、事前に大会事務局までご連絡をいただきましたら、対応を検討いたしますので、気軽にご相談ください。

なお、当日のご相談には対応できない場合もありますのでご承知ください。

## 11 駐車場について

会場には、できるだけ公共交通機関でお越しください。なお、お車でお越しの方は、川崎医療福祉大学の向かいにある川崎医科大学附属病院の駐車場にて、**1時間100円**で停めることは可能です。

## 12 クロークについて

クロークを会場に設けております。なお、貴重品は、紛失や破損の責任を負いかねますので、各自でお持ちください。

## 13 荒天・災害時における大会開催に関すること

大会開催当日、開催地において、自然災害や悪天候等により計画運休が見込まれる時等に関して、大会の開催の中止もしくは変更等を行う場合がございます。その際は、速やかに大会ホームページで周知いたします。

## 14 会場アクセス



大会事務局 \* 学会事務局ではありませんのでご注意ください

ご質問やご不明な点等ありましたら、お気軽にお問い合わせください。

E-mail : jsssw2023@gmail.com

(担当：長崎 和則【川崎医療福祉大学】)